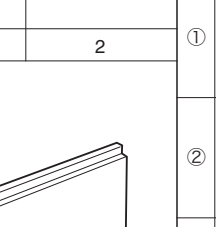
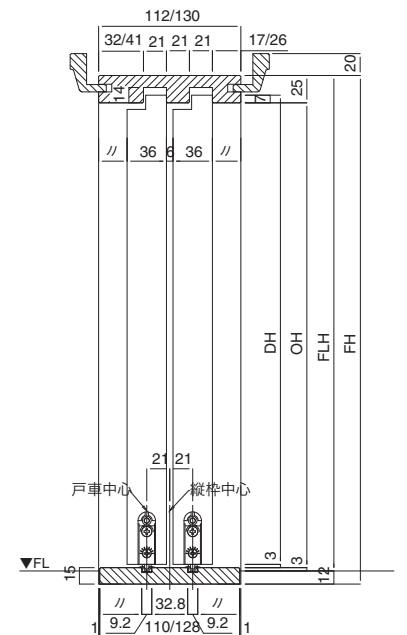
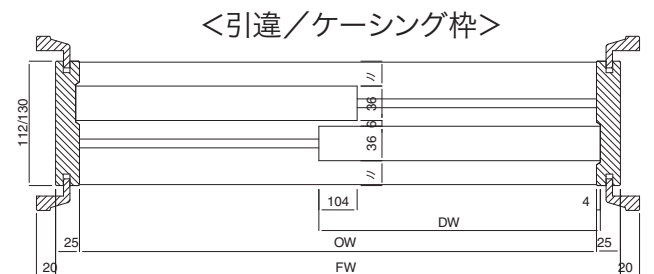
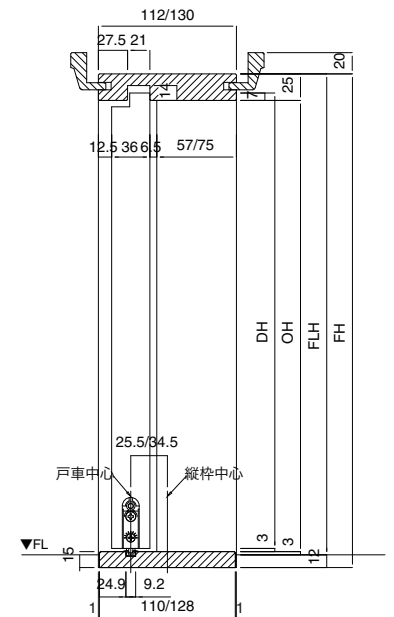
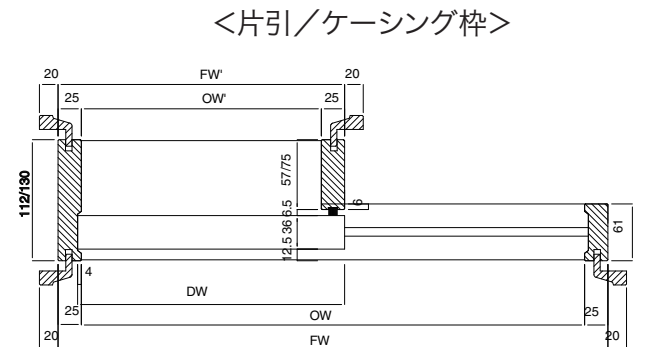


⚠ 施工にあたってのご注意

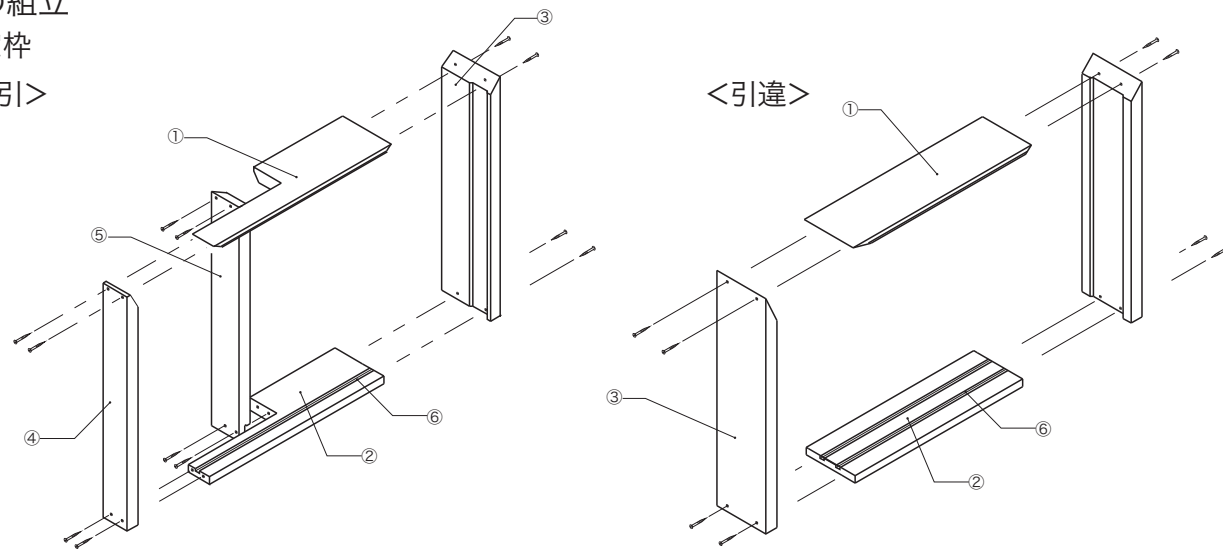
- | 扉梱包 (扉本体) | | 枠梱包 | | | |
|---|----|-----|-------|----|----|
| 片引 | 引違 | | 部材名 | 片引 | 引違 |
| 1 | 2 | ① | 上枠 | 1 | 1 |
|  | | ② | 下枠 | 1 | 1 |
| | | ③ | 縦枠 | 1 | 2 |
| | | ④ | 戸当枠 | 1 | — |
| | | ⑤ | 方立枠 | 1 | — |
| | | ⑥ | Yレール | 1 | 2 |
| | | ⑦ | ケーシング | 6 | 6 |
- ※現場にて留め加工にカットしてください。

枠	タイプ	枠見込 (mm)	スタンダード	
			FW (mm)	FH (mm)
三方枠	片引	(固定枠) 155・175	1650	2040
	引違	(ケーシング枠) 112・130		

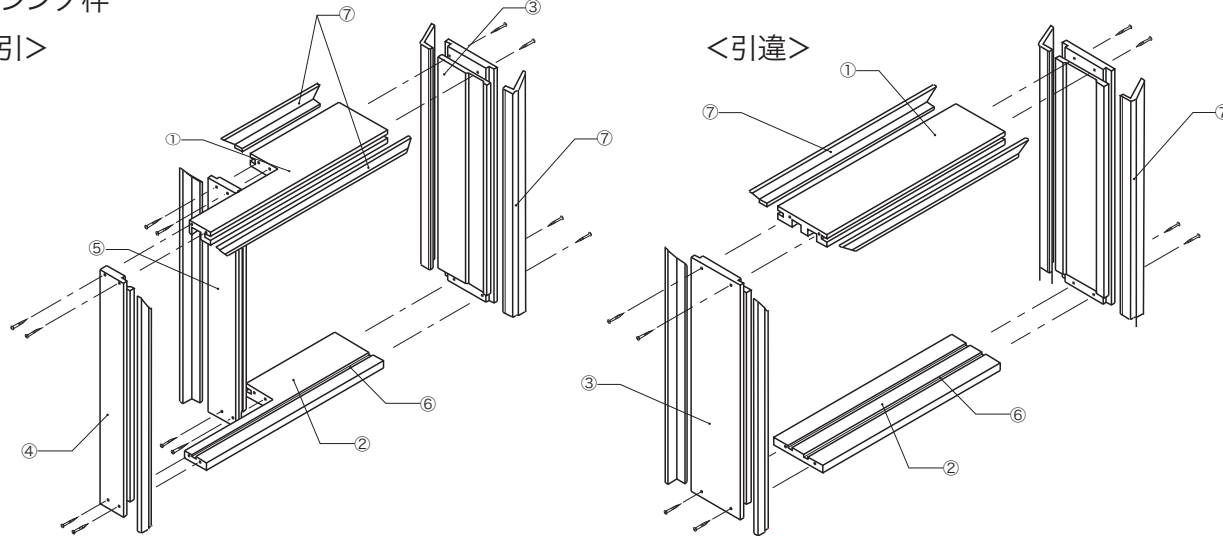


1. 枠の組立て

枠の組立
固定枠
<片引>



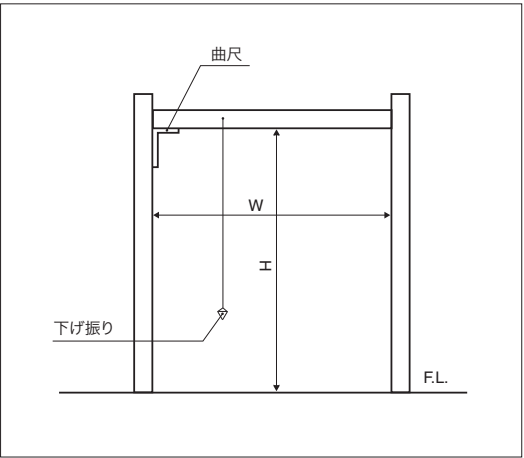
ケーシング枠
<片引>



2. 開口部の確認

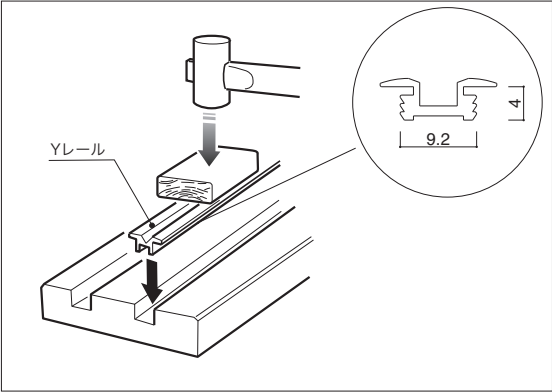
- ①引戸枠取付け前に、必ず柱・床・マグサの水平・垂直が出ているか確認してください。
- ②枠の見込は固定枠(155・175mm)とケーシング枠(112mm・130mm)とケーシングの組合せにより幅広く対応できます。

※ケーシングをカットする場合は一律に丸ノコ等で塗装面からカットしてください。

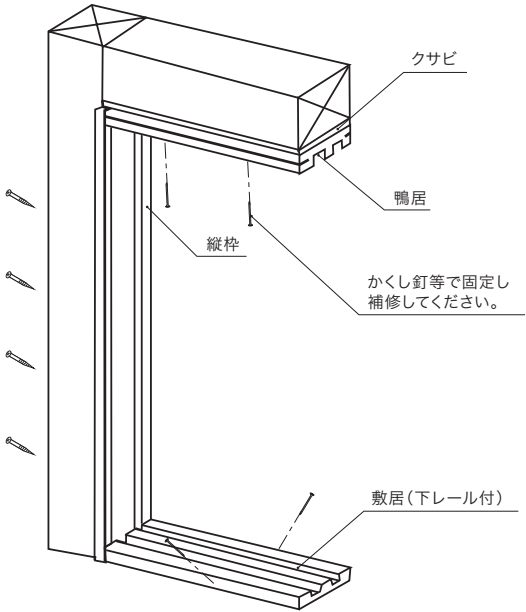


2. 枠の取付け

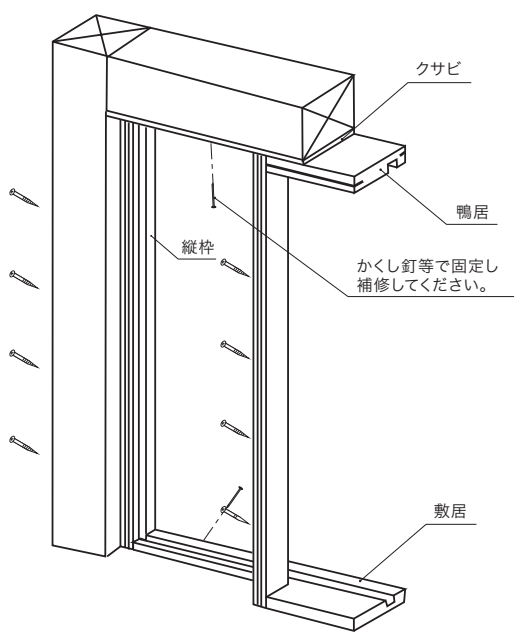
- ①枠を壁面のラフ開口部にはめ込み、クサビ等で上下・左右・前後・倒れ等を調整し位置を決めてください。
- ②鴨居は溝、敷居は木口部分より、また縦枠の固定枠は柱側、ケーシング枠はケーシング溝より、かくし釘・キャップ付ビスで躯体にしっかりと固定してください。
- ③敷居の溝に木づち等で、下レールを右図のようにたたき込んでください。



<引違>

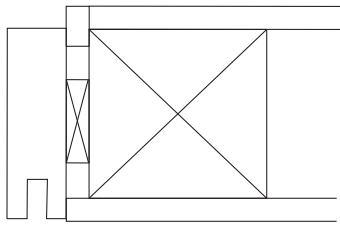


<片引>

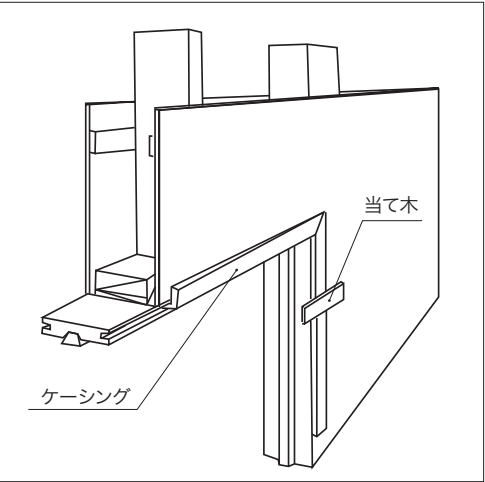


3. ケーシングの取付け(ケーシング枠タイプのみ)

- ①枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
- ②ケーシングを木工用ボンドで枠に固定します。
※ケーシングは接着剤が固まるまで右図のように数箇所「当て木」で押さえてください。
- ③切断加工面等を補修セットでタッチアップし、目立たないようにしてください。



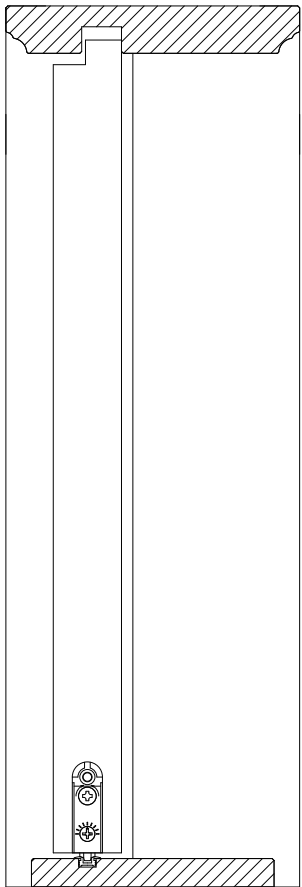
枠はボード面より
2mm程度下げて
取付けてください。



4. 扉の吊込み

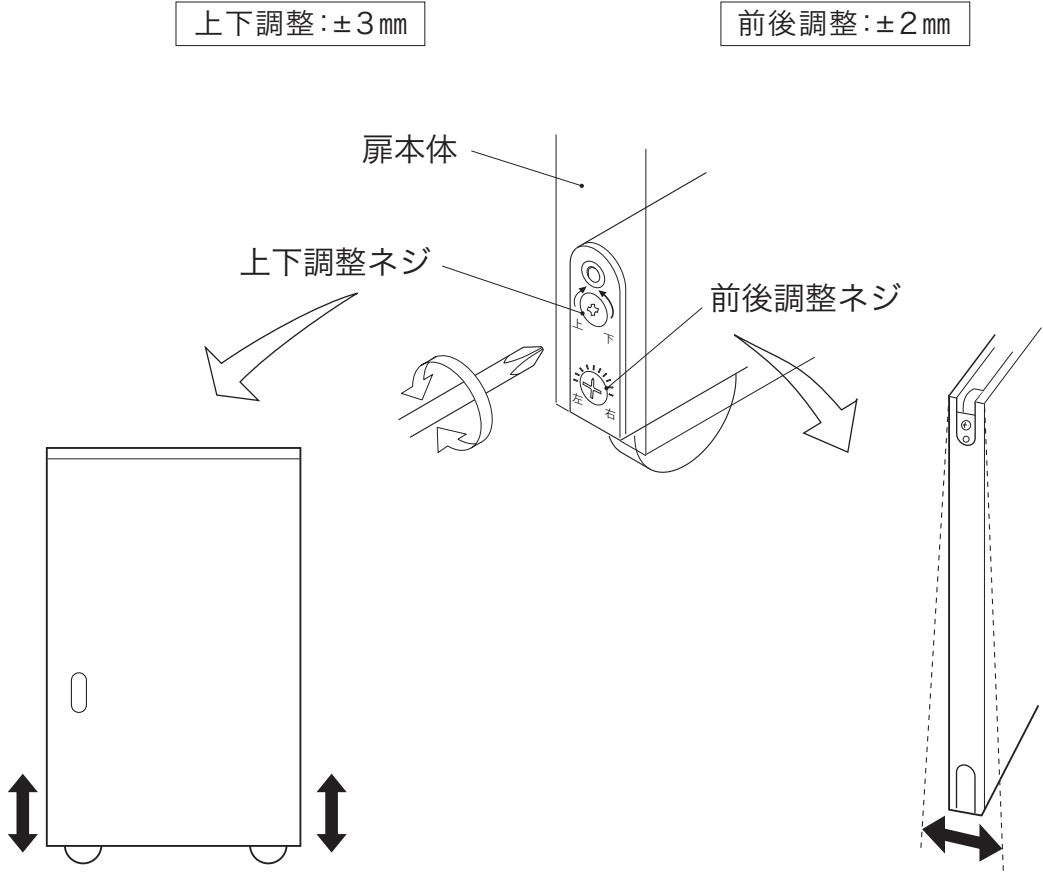
- ①扉を吊り込んでください。
 枠に扉を吊込んだのち、開閉して状態を確認してください。

注意 扉の保護のため、一度扉をはずし建築工事完了後に吊込むことをお勧めします。



5. 扉の建付け調整

- ①戸車の上下調整ネジをプラスドライバーで左右に回し、敷居と扉本体との隙間を調整してください。（右に回すと下がり、左に回すと上がります。）
 ②本体左右の戸車の上下調整ネジを適度に回して調整し、縦枠と扉本体の隙間を調整してください。（右に回すと下がり、左に回すと上がります。）
 ※本体の戸車には上下調整機能が付いています。



※戸車の調整には、電動ドライバーを使用しないでください。



- 本体の鴨居へのかかりが充分か、また本体と縦枠の上部・下部のチリが均等か確認してください。本体がはずれ、人身事故や家財の損害が発生する恐れがあります。

施工終了後の確認

施工が完了しましたら、下記の点について確認してください。

- ◆すべての部品が取付けられているか、また間違った取付けがされていないか確認してください。
- ◆取付けネジが所定の位置に取付けられているか確認してください。
- ◆ネジの緩みや枠のガタツキがないか確認してください。
- ◆ドア本体の開閉がスムーズに行えるか、施工上の不具合がないか再度確認してください。

※枠・扉各々の取付けが完了しましたら、当て傷・擦り傷等がつかないようにお手持ちの養生材等で枠・扉の養生を完全に行ってください。

養生の際には、比較的粘着力の弱い紙製のマスキングテープ等で止めてください。

△ ご注意 △ ポリエチレン繊維等の養生テープは、粘着力が強いため使用しないでください。

※ダンボールはリサイクル品です。地球環境保護のため、回収業者に引取っていただくようご協力をお願いいたします。

※縦枠上部の小口に無塗装部分が見える場合は、補修セットでタッチアップして処理してください。

<お手入れ方法>

- お手入れは、うすめた中性洗剤で汚れを落とし、乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- シンナー等の溶剤や強い洗剤を使用しないでください。使用しますと変色・変質しますので絶対に使用しないでください。
- ペンキ・グリース・油・パテ等が付着した場合は、速やかに拭取ってください。